

平成 27 年度第 1 回人生二毛作推進県民会議 意見交換概要

テーマ 1 「就労促進」～働くことは健康長寿～

【現状・課題】

- ・シニアの就労といっても、「生きがい就労」、「生活収入のための就労」等、様々なニーズがある。
- ・シニアを受け入れたい企業の希望も様々である。
- ・シニアのニーズと企業のニーズは多種多様。必要な情報を必要なところにどのようにつないでいくか考える必要がある。なかなか情報が出てこない現状。
- ・シニアの創業支援などを行っている中で、情報発信が足りない。

解決策

◆ニーズに合った就労形態の整備

- ・多様な働き方のモデルづくり（多様な働き方に企業が対応、柔軟な雇用）。
- ・多様化したシニアのニーズに合った職業訓練の場が必要。

◆マッチング／情報共有（受発信）

- ・求めるシニアの情報や働きたい、スキルを活かしたいシニアの就労情報など、情報の収集の仕組みづくり。
- ・シニアと受入側のマッチングの仕方が重要。

◆多様な分野でのシニアの就労支援

○定年後（二毛作）を見据えた支援

- ・定年前にキャリアデザインにかわる「ライフデザイン」を検討する機会が必要。
- ・65 歳以上の高齢者に対する就労支援（授業者支援と求職者支援）。

○農業ある暮らし支援

- ・シニア大学における援農プログラムの実施。
- ・農地を借りる仕組み整備。

○起業・創業

- ・シニア向け創業セミナーの実施。創業相談体制の構築。
- ・創業で失敗したときのセーフティネットの整備。

◆シニアの「就労」への意識・認識

- ・「働くこと」＝ひとつの社会貢献と広い意味でとらえる。
- ・収入よりも「存在するため」の労働でもよいのではないか。「生きている」と自己認識するためにも働くことは重要。
- ・働くことは、健康長寿につながる。

テーマ2 「多様な社会参加」～仲間を見つけ参加するキッカケ！～

【現状・課題】

- ・退職男性の地域への参加が少ない、地域とのつながりが少ない（女性は働きながらも地域等との関係づくりができていない）。
- ・地域で活動している団体になかなか入らない。

解決策

◆仲間づくり

- ・退職した方が地域デビューするためには、「仲間を見つける」ことが大きな核。
- ・地域や社会の課題の解決等、同じ問題意識を持った仲間とつながること。
- ・仲間と一緒に行動することが実践につながる。

◆気持ちづくり

- ・活動自体にやりがい、生きがいを見いだせる仕組みが必要。「気持ちおこし」。
- ・「キャリアパス」ではなく、「ライフデザイン」。仕事を辞める前提での準備が必要。
- ・早い段階から自分のプランを考えていくこと大切。
- ・人生のトータルなイメージでのプランづくり重要。

◆受入体制の整備

- ・選べるだけの情報と場が必要。
- ・培ってきたスキルを地域に活かせる仕組みが重要。
- ・地域での社会参加の「受け皿」づくりが大事。
- ・新しいことを身につけたい人の学びの場を地域につくっていく。
- ・ボランティアポイント（介護保険上の）などで評価するシステムも必要では。
- ・シニアの「やりがい」「求めるもの」を的確に把握すること。

【多様な社会参加の場】

- ・地域の小中学校支援（通学見守り、授業）
- ・公民館活動（自治会等）
- ・移送サービスの運転
- ・地域や社会の課題解決への協力（地域貢献）

◆地域（活動）とつながる仕組みづくり

- ・企業と地域の連携。
- ・現役時代から地域とつながるプログラムの実施。
- ・働きながらも地域で活躍すること。
- ・若者たちの活動を知る場や社会ニーズ、地域課題を知る場づくり（自分のスキルを活かす、活動につながるヒントを得るキッカケづくり）。

テーマ3 「移住交流」～移住者と地域をつなぐ「おせっかい役」づくり～

【現状・課題】

- ・移住者は困ったときにどこの窓口で相談すればよいか。
- ・「移住してきた後」に関する情報発信場所が少ない。
- ・地域によっては、移住者を快く受け入れていない現実もある。
- ・移住者が中心となって市民活動、地域活動をしている地域もある。

解決策

◆地域での相談役

- ・移住者が定着しているところには、「重鎮」がいる。
- ・地域のキーマン意識づけ。住民とつながるきっかけ役。
- ・移住者が地域に溶け込めるように、地域のルール等を教えてくれる「おせっかい役」がいると、来る人も安心。
- ・「おせっかい役」の発掘や育成が大事。（「おせっかい役」をどう発掘するか難しい。）
- ・シニアの活躍の場として、「おせっかい役」を委嘱。
- ・「おせっかい役」の方には、肩書き（おせっかいじいさん・ばあさん）をつけて、名刺を持たせる。そのことが励み、生きがいにもなる。

◆地域とつなげる環境づくり

- ・地元住民と移住者の交流の場として、町会活動を使ってはどうか。
- ・地域の「役」に積極的に登用する・される関係づくり。
- ・移住者便利帳の作成。
- ・声をかける。地元の人が話をしやすい雰囲気をつくる。地元自治会とのつながり。

◆仕事・住まい一体の情報提供

- ・地域の情報の収集役としてシニアネットワークが有効なのは。
- ・空家情報の提供（県空家バンクの情報発信）、口利き役（空家交渉）が必要。
- ・移住に関する情報発信役の充実等、受け入れ側の体制確立が重要。

◆移住者の「農ある生活」への支援

- ・農協の農業指導員だった人や、会社に勤めていても農業をしていた人を、移住者の農業指導をするような登録制度、事業所ができないか。
- ・リタイアした農家の方が移住者に「農」について経験や技術、農村文化（慣習等）を伝承。

◆移住者のスキルを活かした地域振興

- ・「地域振興」につながる地域の魅力は外部の人の方がよくわかっている。
- ・（移住してきたシニアの方が）地域のアドバイザーとして、活躍してもらえないのではないか。